

## 第2章 調査結果の分析



## 第2章 調査結果の分析

### 2-1 水道の使用状況

#### (1) 水の飲み方

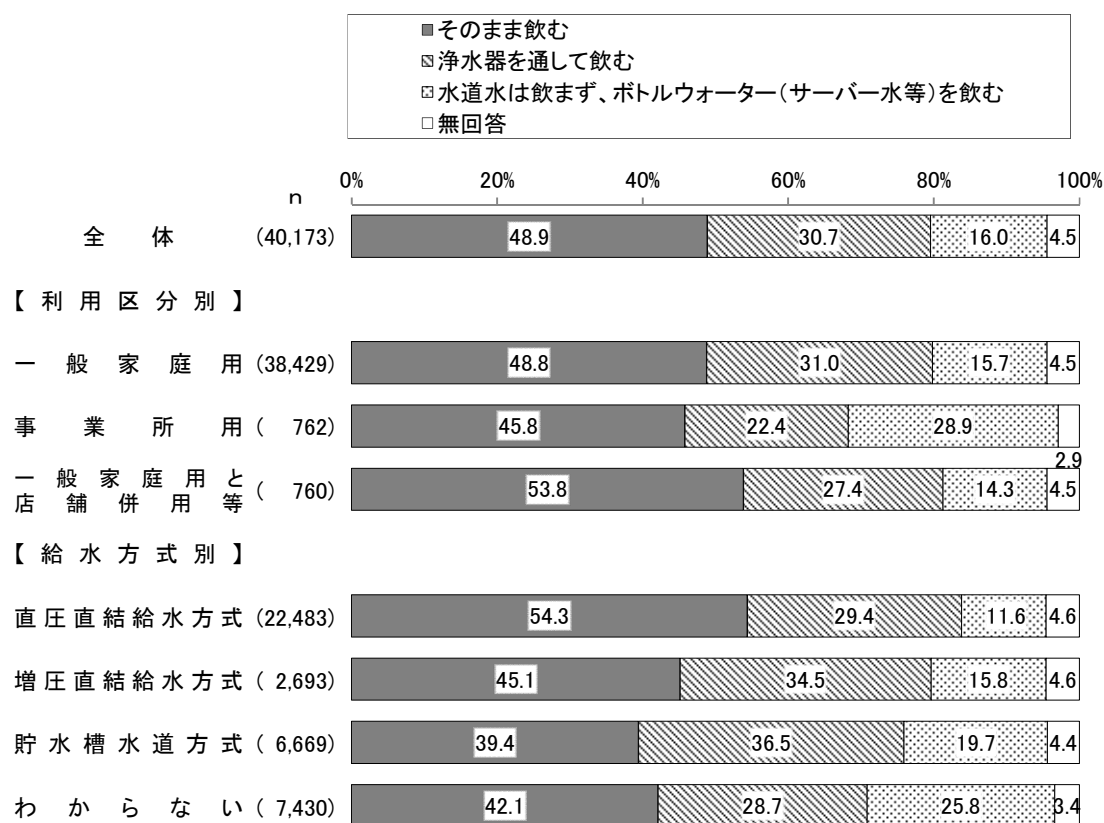
問 普段、水道水をどのように飲まれていますか。

- 1) そのまま飲む
- 2) 浄水器を通して飲む
- 3) 水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む

[A : 問6]

[調査結果]

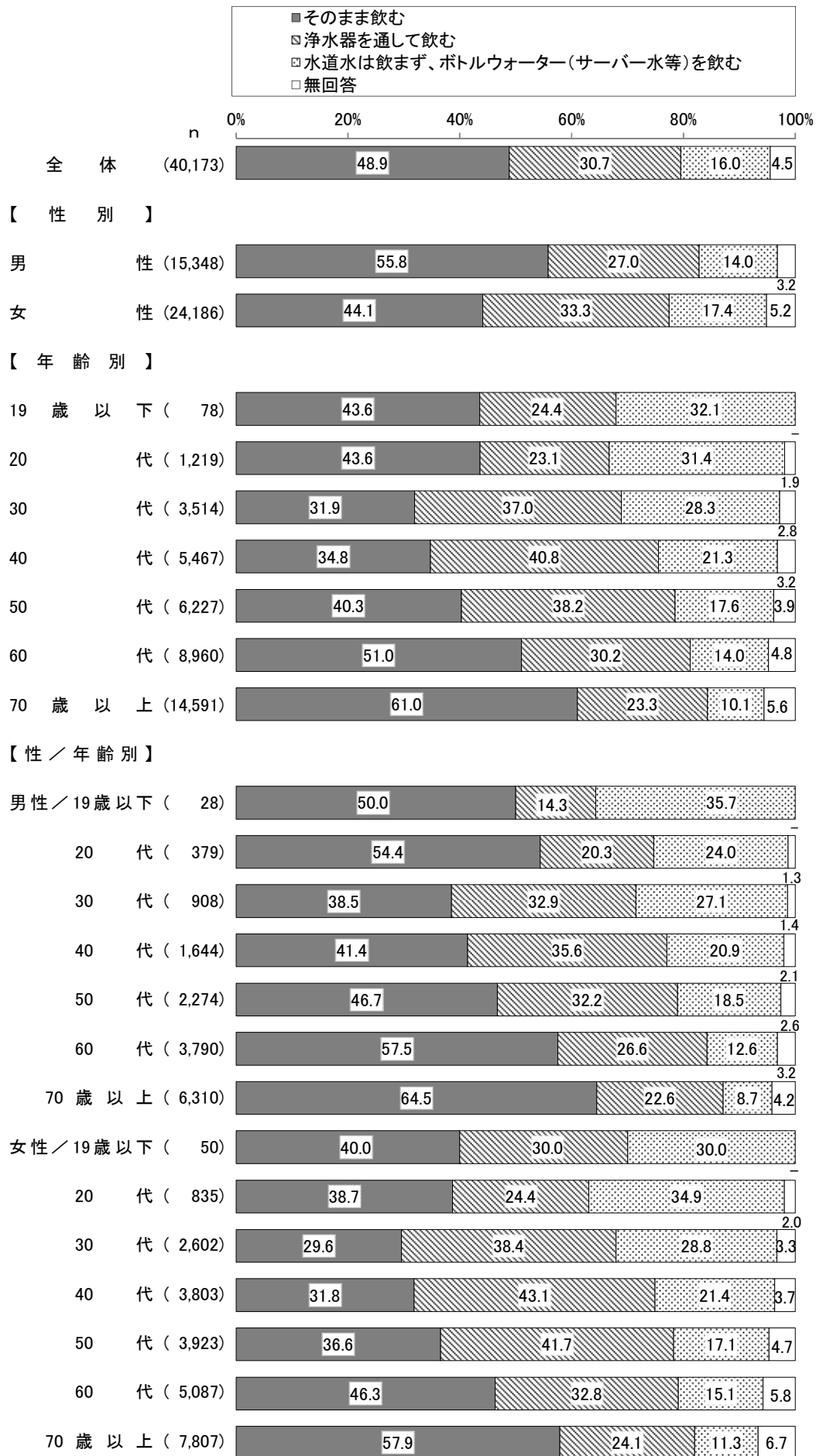
#### ① 水の飲み方（利用区分別、給水方式別）〈図表2-1-1〉



<特徴>

- 全体でみると、「そのまま飲む」が48.9%で最も高くなっている。以下「浄水器を通して飲む」(30.7%)、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」(16.0%)となっている。
- 利用区分別では、「そのまま飲む」は、一般家庭用と店舗併用等で53.8%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「そのまま飲む」は、直圧直結給水方式で54.3%と最も高くなっている。

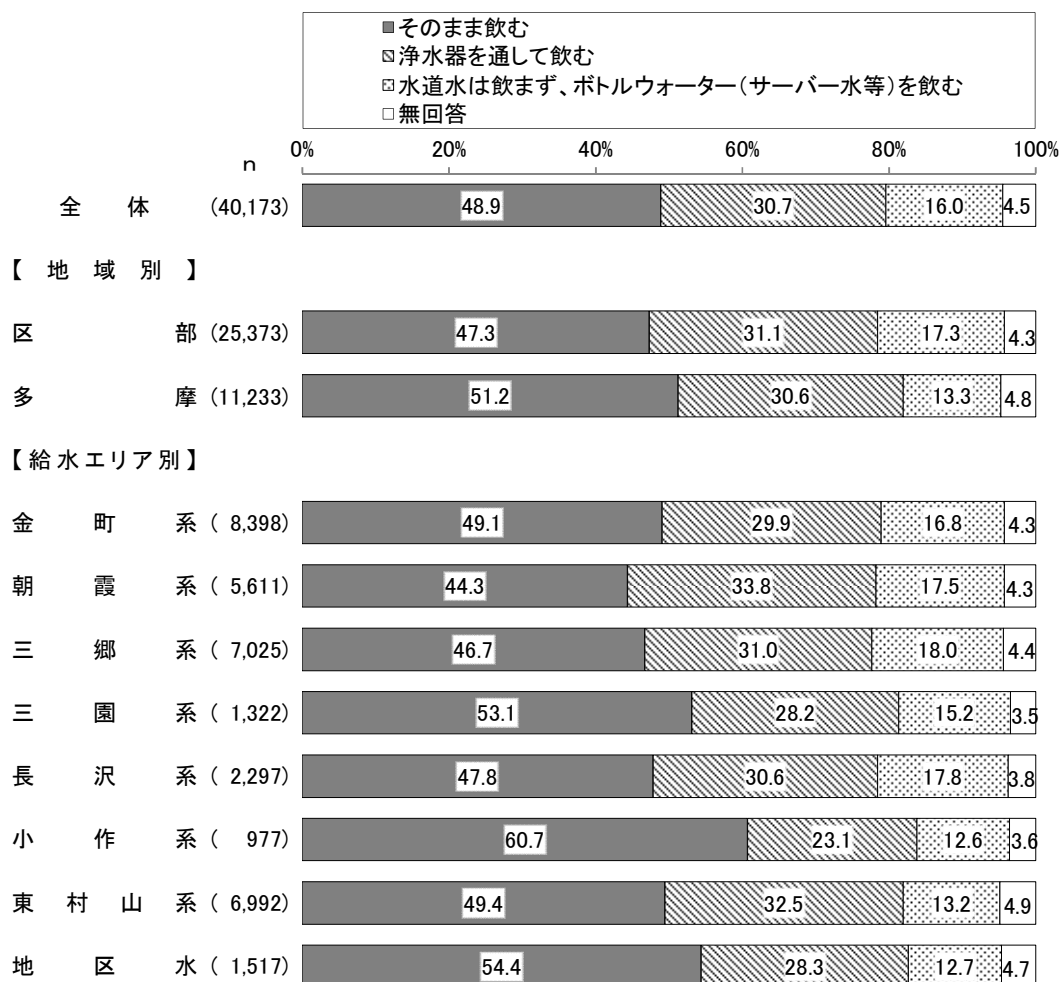
② 水の飲み方（属性別）〈図表2-1-2〉



<特徴>

- 性別では、「そのまま飲む」は、男性（55.8%）の方が女性（44.1%）より11.7ポイント高くなっている。一方、「浄水器を通して飲む」は女性（33.3%）の方が男性（27.0%）より6.3ポイント高く、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」も女性（17.4%）の方が男性（14.0%）より3.4ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「そのまま飲む」は、30代（31.9%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれて割合は高くなり、70歳以上（61.0%）で最も高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、19歳以下（32.1%）で最も高く、それ以降は年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。
- 性/年齢別では、「そのまま飲む」は、男性の70歳以上（64.5%）で最も高く、女性の30代（29.6%）で最も低くなっている。また「浄水器を通して飲む」は、女性の40代（43.1%）で高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、男性の19歳以下（35.7%）、女性の20代（34.9%）、19歳以下（30.0%）、で3割を超え、高い割合となっている。

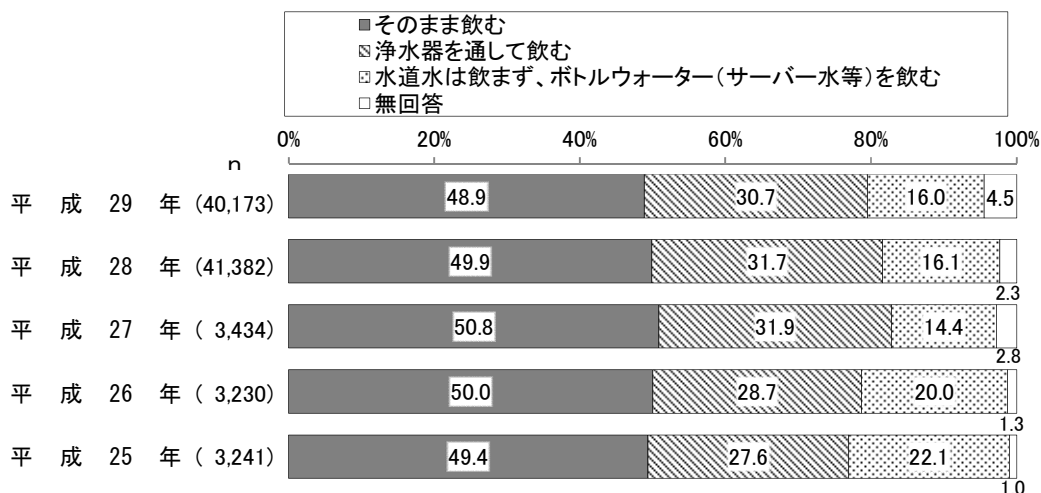
③ 水の飲み方（地域別、給水エリア別）〈図表2-1-3〉



<特徴>

- 地域別では、「そのまま飲む」は、多摩（51.2%）の方が区部（47.3%）より3.9ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は区部（17.3%）の方が多摩（13.3%）より4.0ポイント高くなっている。
- 給水エリア別では、「そのまま飲む」は、小作系（60.7%）が最も高くなっている。

④ 水の飲み方（時系列：全体）〈図表 2-1-4〉



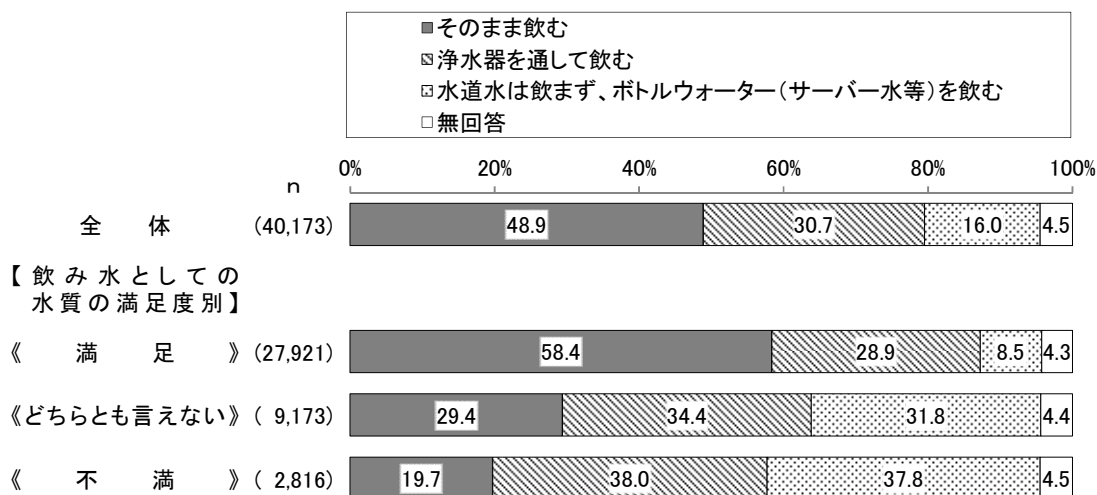
〈特徴〉

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「そのまま飲む」が5割前後、「浄水器を通して飲む」が3割強で推移している。

〔詳細分析〕（分析の軸はA票の設問）

⑤ 水の飲み方（飲み水としての水質の満足度別）〈図表 2-1-5〉

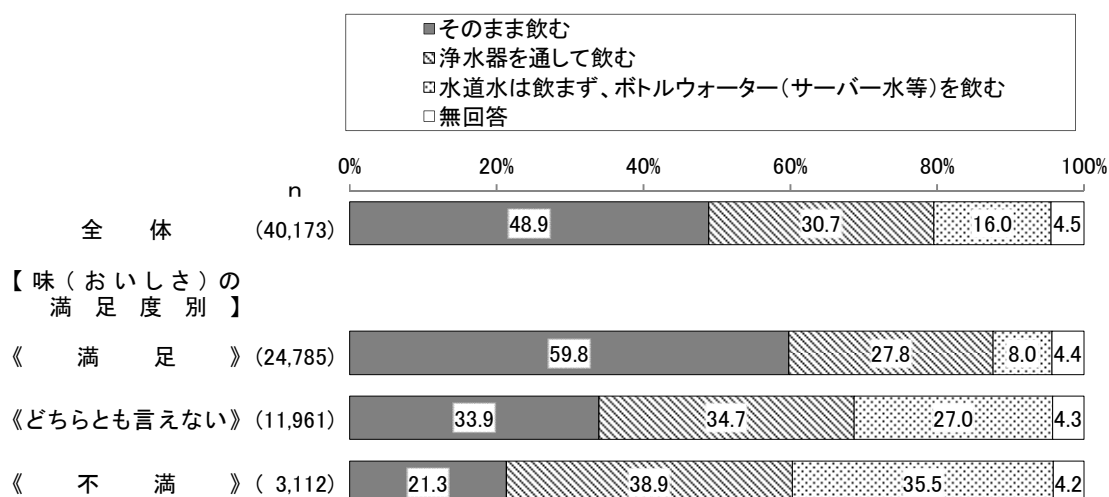


注 飲み水としての水質の満足度の結果は20ページに掲載されているが、水の飲み方はA票のみの設問であるため、nはA票の回答者数に絞られる。

〈特徴〉

○飲み水としての水質の満足度別では、「そのまま飲む」は、飲み水としての水質に《満足》な人(58.4%)の方が《不満》な人(19.7%)より38.7ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター(サーバー水等)を飲む」は、《不満》な人(37.8%)の方が《満足》な人(8.5%)より29.3ポイント高くなっている。

⑥ 水の飲み方（味（おいしさ）の満足度別）〈図表2-1-6〉



<特徴>

○水道水の味（おいしさ）では、「そのまま飲む」は、水道水の味（おいしさ）に《満足》な人（59.8%）の方が《不満》な人（21.3%）より38.5ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、《不満》な人（35.5%）の方が《満足》な人（8.0%）より27.5ポイント高くなっている。

(2) 調理に使用する場合の水の使用状況

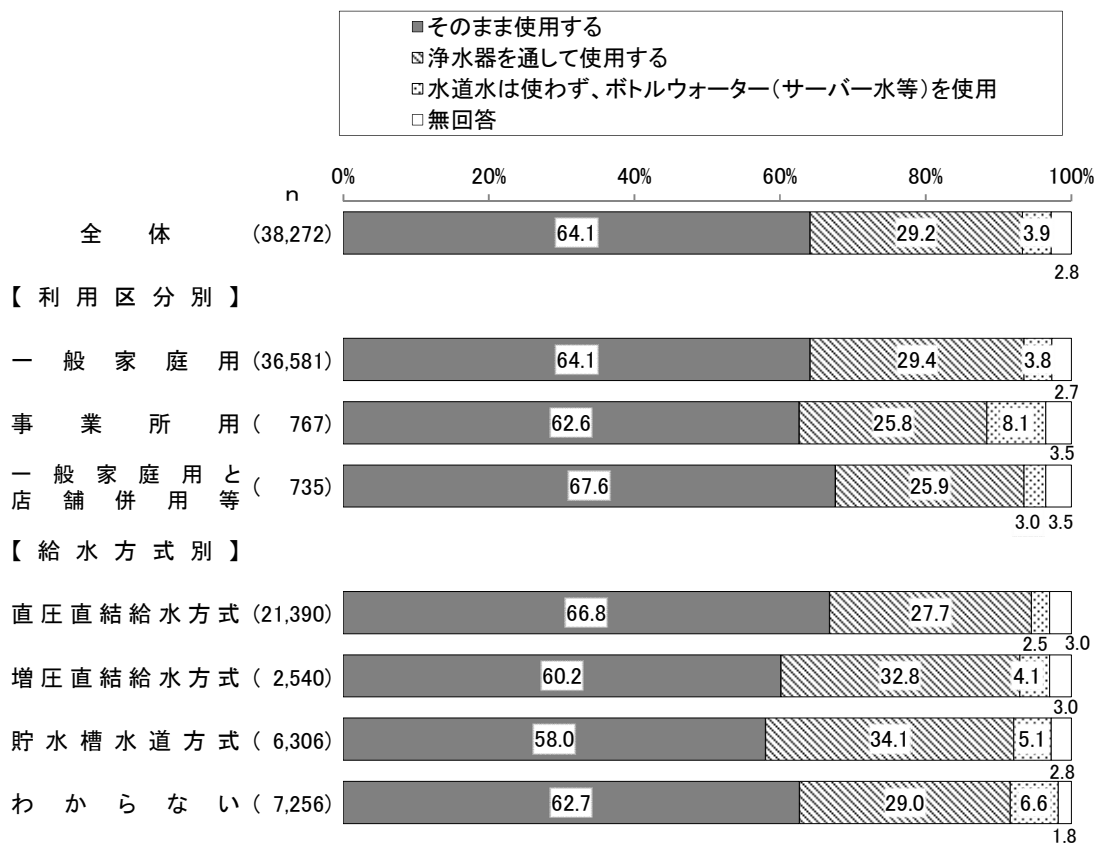
問 普段調理をする場合、水道水をどのように使用されていますか。

- 1) そのまま使用する
- 2) 浄水器を通して使用する
- 3) 水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用する

〔B：問8〕

〔調査結果〕

① 調理に使用する場合の水の使用状況（利用区分別、給水方式別）〈図表2-1-7〉

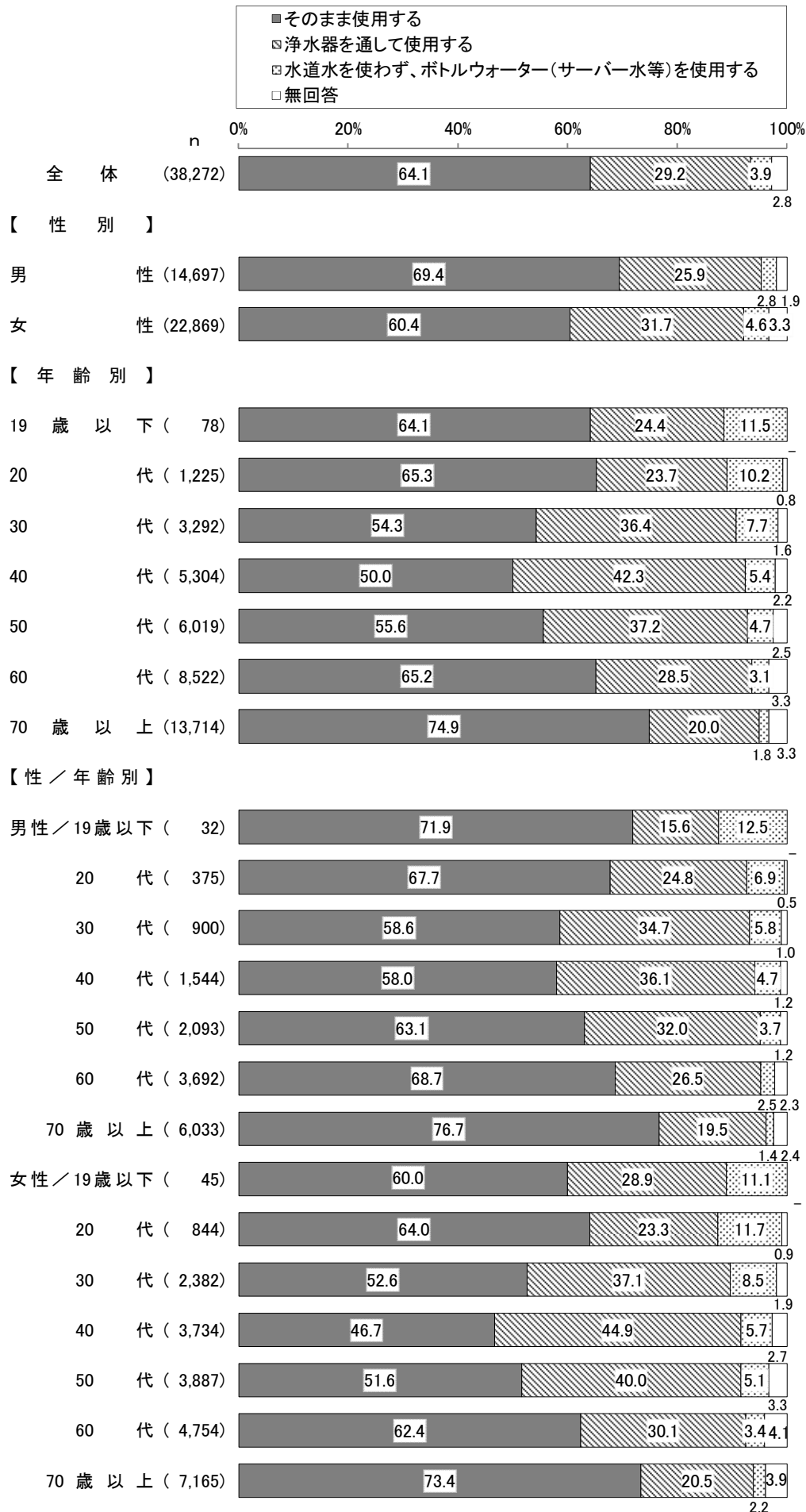


<特徴>

- 全体で見ると、「そのまま使用する」が64.1%で最も高くなっている。以下「浄水器を通して使用する」(29.2%)、「水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用」(3.9%)となっている。
- 利用区分別では、「そのまま使用する」は、一般家庭用と店舗併用等（67.6%）で最も高い割合となっている。
- 給水方式別では、「そのまま使用する」は、直圧直結給水方式で66.8%と最も高い割合となっている。



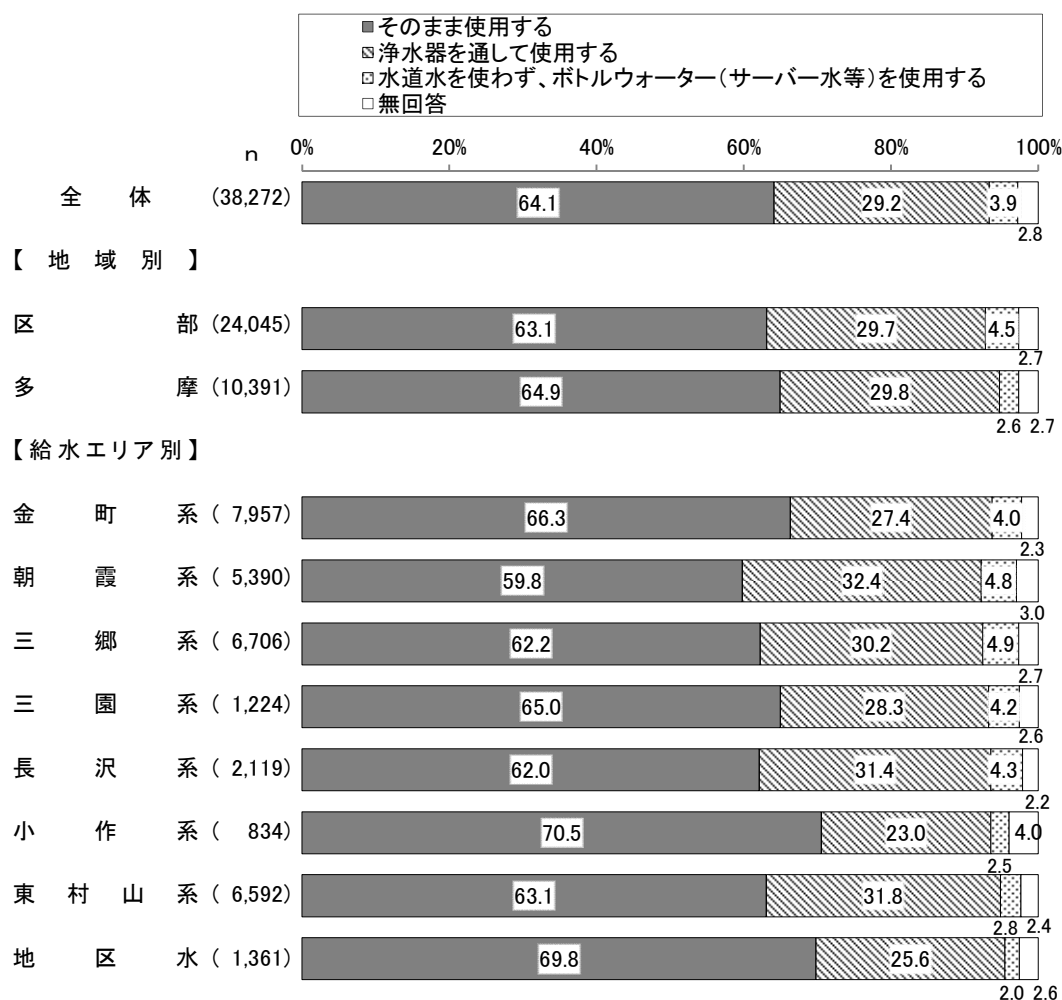
② 調理に使用する場合の水の使用状況（属性別）〈図表 2-1-8〉



<特徴>

- 性別では、「そのまま使用する」は、男性（69.4%）の方が女性（60.4%）より9.0ポイント高くなっている。一方、「浄水器を通して使用する」は女性（31.7%）の方が男性（25.9%）より5.8ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「そのまま使用する」は、20代（65.3%）から年齢が上がるにつれて割合は低くなり、40代（50.0%）で最も低くなるが、それ以降は年齢が上がるにつれて割合は高くなり、70歳以上（74.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、「そのまま使用する」は、男性の70歳以上（76.7%）で最も高く、次いで、女性の70歳以上（73.4%）となっている。

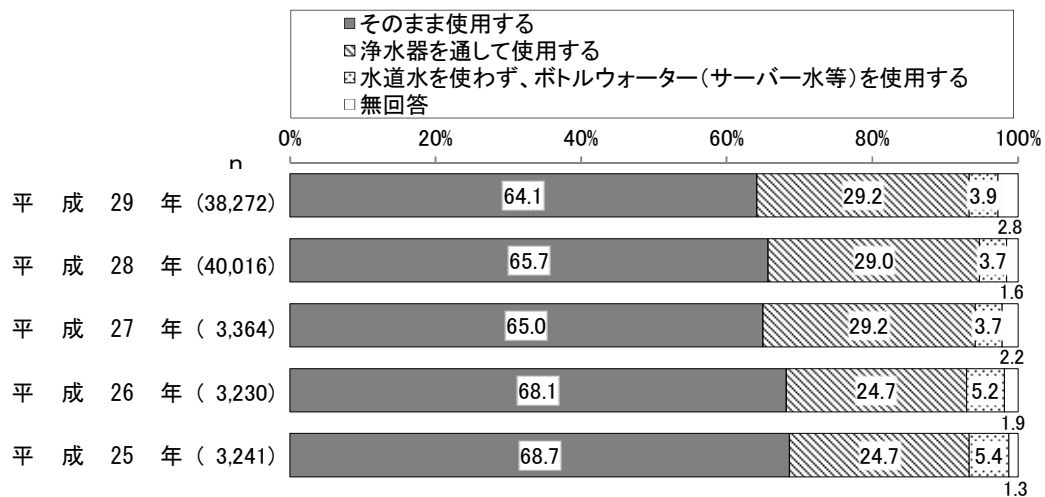
③ 調理に使用する場合の水の使用状況（地域別、給水エリア別）〈図表2-1-9〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、「そのまま使用する」は、小作系（70.5%）で最も高く、次いで地区水（69.8%）となっている。

④ 調理に使用する場合の水の使用状況（時系列：全体）〈図表2-1-10〉



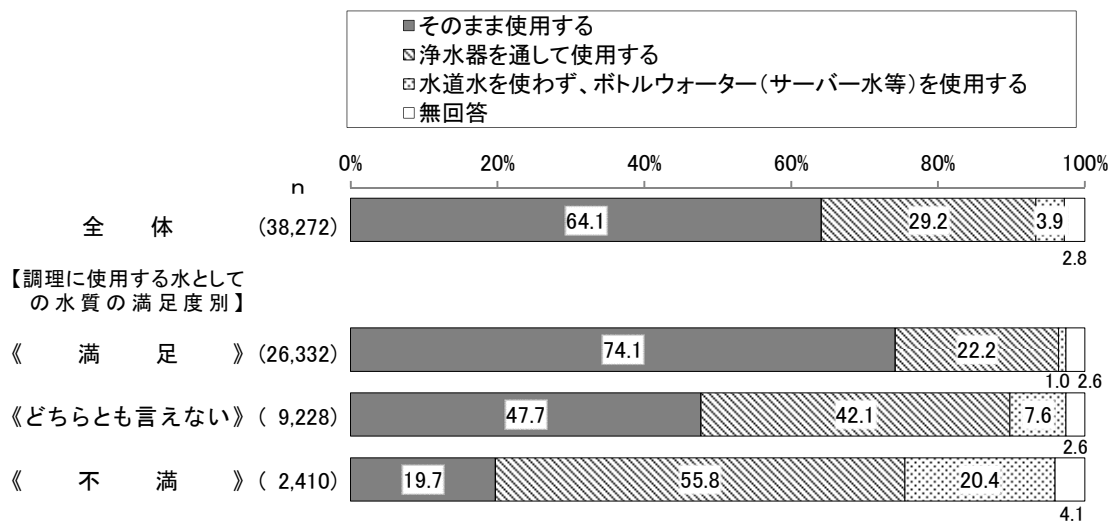
〈特徴〉

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「そのまま使用する」が6割台半ば、「浄水器を通して使用する」が3割弱で推移している。

⑤ 調理に使用する場合の水の使用状況（調理に使用する水としての水質の満足度別）

〈図表2-1-11〉



〈特徴〉

○調理に使用する水としての水質の満足度別では、「そのまま使用する」は、調理に使用する水としての水質に《満足》な人(74.1%)の方が《不満》な人(19.7%)より54.4ポイント高くなっている。一方、「水道水を使わず、ボトルウォーター(サーバー水等)を使用する」は、《不満》な人(20.4%)の方が《満足》な人(1.0%)より19.4ポイント高くなっている。